平成三十一年／石川県白山市

東二口 文弥まつり

◆日　時

2月9日(土)　夜の部・午後7時(出世景清)
10日(日)　昼の部・午後2時(大職冠)
16日(土)　夜の部・午後7時(酒呑童子)
17日(日)　昼の部・午後2時(源氏烏帽子折)

東二口文弥人形浄瑠璃・でくの舞(国指定重要無形民俗文化財)

白山市東二口集落におよそ350余年前より伝えられる「文弥人形浄瑠璃・でくの舞」は、当時集落の有志が京より習いおぼえ帰村し、伝教したのが始まりとされています。「三番隻、口上、初段・・・」と語る太夫に笛、三味、太鼓が続き、舞人の巧みな足拍子は文弥の原形をとどめるものとして、昭和52年5月、国の「重要無形民俗文化財」に指定されました。単調といわれる“でく”の舞のなかに暗闇に映えて怒り・喜び・悶え苦しむ心が、舞う人と“でく”とが一体になって表現されてゆくそれはきわめて個性的で力感にあふれ、多面的な表現をもって舞台を闊歩し、昔時の人間像が“でく”を媒体に観る者の心に伝わってきます。

■ところ　白山市東二口歴史民俗資料館(石川県白山市東二口卯106-1)
■入館料　無料(座席の指定はありません。立見の場合もあります)
■お問い合わせ　白山市観光課　☎076－274－9544

《無料直行バスのお知らせ》

◇運行日　2月10日(日)、17日(日)　※昼の部のみ
◇乗車場所・時間　金沢駅西口(観光バス駐車場)11:45発→白山市役所(正面玄関前)12:15発→東二口歴史民俗資料館13:15着　※帰りは演目の終了時間に合わせて出発します。
◇定員　20名(先着順)
◇申し込み　1月21日(月)より2月1日(金)の午前9時から午後6時までに下記へお申し込みください。

お申し込み
お問い合わせ
加賀白山バス(株)　☎076－272－1893
石川県白山市安養寺町二30番地

主催:東二口文弥人形浄瑠璃保存会／協力:金沢工業大学、えふえむ・エヌ・ワン

文弥人形浄瑠璃の特色

古老より伝承されている操法の基本は一人使で三歩前進二歩後退の形に準ずるも常に配役の心になりきり、舞は我を忘れてその場面により変化は万別である。人形そのものを操るのではなく人形と舞う者が一体となってその配役の人と心になりきるのである。人形を舞う人が人形に操られる事が座中操法の原則である。

開演次第

①三番隻 ②口上 ③直前口上「初段二段三段四段五段」④上演芸題「五演目の内」⑤華ほめ（太夫、三味、太鼓、笛、舞人、道具使）

特種な節と舞

源氏烏帽子折の二段女道行、三段東雲女舞。門出屋島の初段二段男クドキ、三段佐藤忠信が佐藤次信を探し求める場面。大職冠の初段二段舟道行、初段舞攻「足をふまない」四段稚児の舞、其の他男クドキ。嫗山姥の二段八重桐の舞。酒呑童子の奥隆神舞。鬼神舞等である。

現在現地公開されている浄瑠璃五演目の、物語りの大要は次のとおりである。

源氏烏帽子折

保元平治の乱にやぶれた、源義朝の子、牛若丸と、母常盤御前は命をねらわれるが、藤九郎盛長と渋谷の金王丸に助けられる。

牛若丸が十六歳で元服するために烏帽子を求めんと、都三条烏丸の五郎太夫という商人の家で、烏帽子を作らせ、其の娘、東雲女と仲良くなり、二人で元服式を祝し、源九郎義経となる。その後義経はまた命をねらわれるが、弥平兵衛宗清らに助けられ、奥州平泉へ下る。

出世景清

屋島・壇の浦の戦に、やぶれた平家の景清は、其の敵、源頼朝をなんとしても打ちたいものと、落人に身を変じ、尾張の国熱田の大宮司の娘、小野の姫と夫婦となり大宮司の婿となって時節を待っていた。その景清が平家盛んな時に、ひそかに愛した阿古屋と言う遊女に子供が二人あった。その阿古屋の兄、十造が欲心から、景清を頼朝にうったえたため、景清は、頼朝にとらわれたが、其の牢の前で、阿古屋親子が自害し景清は後に頼朝をうつ事をあきらめ、頼朝から、日向の国をたまわり、其の国の殿となる。

門出屋島

平家討伐のため、奥州秀衡のもとから兄頼朝の所へ発つ決心をした源義経は、源氏の遺臣・志田三郎に会い、佐藤次信・忠信兄弟を家来にするよう勧められ、その意見に従い、彼らと弁慶と共に出発し、やがて合戦の舞台は四国屋島へ移る。

兄弟の父・佐藤庄司は屋島で戦う二人の兄弟を励まそうと、それぞれに好みの鎧を送り届けた。しかし、兄・次信はその鎧を着て義経の身代りとなり、平家の大将・能登守教経の矢に当たり、打ち死にしてしまうのだった。

大職冠

飛鳥時代、藤原鎌足の娘が、唐の高宗皇帝の后であった。その唐より日本の「藤原氏の願い寺興福寺」へ三つの宝が送られることになった。途中竜宮城の竜王が聞き修羅王を頼み知倉沖にて唐よりの使者、万公将軍、運宗と言う勇士と激戦に及んだが及ばず、女に身を化して志度の浦にて三つの宝の内、面向不背の玉をうばい去った故、鎌足公のちゃく男、内大臣、淡海公は志度の浦に行き土地の海人と仲良く成り子供も出来た後、海人を頼んで竜宮城から、面向不背の玉を取り返す。海人に出来た子が、右大臣房崎公と成人し、当所支度寺にて行基菩薩を頼み母の供養をする。此の面向不背の玉は釈迦如来の御骨を入れた玉と言われ興福寺釈迦門仏のみけんに安置される。

酒呑童子

丹後の国、大江山に酒呑童子が住みその手下の、茨木童子が都九条羅生門で渡辺の綱に片うでを切り取られた後日、うばに変じて取りかえし又都に鬼人現われ、金銀財宝をうばい取りあらしまわった。時の天皇は源頼光に鬼人を退治するよう命じた。頼光は家来五人を引きいて、大江山に行き鬼人を退治し、とらわれた姫たちを助け、都へ帰り武名を上げる。